



Sustainable Community Center Japan

NPO
New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2003 年度

活動報告書

2003 年 1 月 1 日～2003 年 12 月 31 日

2004 年 2 月 5 日

特定非営利活動法人 日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに「2003 年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」	4
1-1. みあこネット事業概要	4
1-2. みあこネットのサービス概要	4
1-3. 基地局分布	5
1-4. みあこネットの活動概要	5
1-5. みあこネットを利用した各種実験・活動	5
1-6. みあこネット・インテル協同 PR キャンペーン記念フォーラム	6
1-7. みあこネットビジネス分科会	7
1-8. みあこネット運営体制	7
2. 「e音ネット」事業（音でひらくアクセシビリティの扉）	9
2-1. 事業概要	9
2-2. アクセシビリティ・プロジェクト	9
2-3. UD(ユニバーサル・デザイン)・プロジェクト	11
2-4. 「ウチコミくん」プロジェクト	11
2-5. アクセス・ホットライン・サービス	11
3. 研究会事業(産官民学の活発な人材交流)	13
3-1. エココミュニティ研究会と SCCJ サロン活動実績	13
3-2. 京都研究会	14
3-3. SCCJ 共催企画	15
4. コンサルテーション事業「愛きもの」	16
4-1. 「きもの de まちあるき」	16
4-2. e きもの NPO 支援サービス	16
5. 受賞	17
6. 広報・マーケティング	18
6-1. 各種メールマガジン発行	18
6-2. 各種メールリングリスト運営	18
6-3. Web リニューアル	18
6-4. プレスリリース	18
6-5. メディア露出度	19
7. 寄付	20
8. 会員について	20
9. 助成金	20

II センター運営に関する活動

1. 2003 年度 SCCJ 理事会開催日	21
2. 事務局体制	22
3. 理事、監事、顧問	23

はじめに 「2003 年度の報告と今後の抱負」

2001 年 10 月京都府へ、京都府の情報化に関する政策提言をしました。

広帯域ネットアクセスでベスト・アクセシビリティ都市を目指す！

——智の産業創出のメッカ 情報自由都市京都——

(http://www.sccj.com/presen/kyoto_teian_2001_10_14.htm)

その中には、SCGJ の源流の夢がつまっています。2 年前の社会の色も反映されており、今とその時の違いに驚かされます。この政策提言の中で、以下の要点を盛り込んでいます。

【提案のまとめ】

1. インフラ環境整備：街中や自宅に有線・無線を含めた多様な広帯域インターネット環境の確保
2. リスク管理：どこでも複数の経路を経由した広帯域アクセスの確保、災害時の情報アクセス網の確保
3. 情報の発信
 - (1) 情報公開：税金にもとづく活動の情報をインターネットで公開
 - (2) 情報のアクセシビリティ基準の設置：誰でもどこでもアクセスできる情報ツールの開発
4. 人材育成
 - (1) メディアリテラシー教育で情報の受発信能力の向上
 - (2) エデュテイメント (education&entertainment) 教育指導者の養成
5. 具現化のために：京都 IP 通信公社株式会社の設立 (配当のない社会的責任企業)

SCGJ では情報格差解消による「ゆるやかな雇用の創出」を目標に、視覚障害者のインターネット講座を 1999 年から 2 年間実施しました。当時は、個人宅の従量制モデム接続と企業の大容量定額制のデジタル格差、情報化に取り残されがちな高齢者・障害者への情報化支援教育の必要性が課題でした。あれから 5 年が経ち、インターネット環境はモデム接続から ADSL、光ファイバーなどのブロードバンド対応へ。通信料金も定額制となり、個人のインターネット環境も格段に改善される一方、みあこネットをはじめとする公衆無線インターネットサービスも全国的に広がっています。

上記提言に盛り込んだアクセシビリティ路線では、「Web のアクセシビリティ講座」、ユビキタスラジオの開発がプロジェクトとしてつらなり、無線を含めた広帯域インターネット環境の確保は、みあこネットの全国的な広がりとなってあらわれています。しかし、メディアリテラシーや人材育成路線は、まだまだネットワーク形成段階で、今後さらに多くの方々を巻き込みながら、地域情報化プロジェクトとしてすくすくと育っていくように、地道な努力をしていきます。

さて、SCGJ 一年の活動総決算は、京都研究会です。2003 年度は 12 月 5 日金剛能楽堂において、『まちが変わった ユビキタス社会の可能性』というテーマで開催いたしました。今回は、総合芸術家・狂言師の野村万之丞氏と未生流笹岡次期家元笹岡隆甫氏による、伝統や生活文化の 21 世紀的活用に関するセッションを設け、日本固有のコンテンツについても掘り下げて考えました。伝統と革新、リアルとネットは表裏一体。人間の心の有様が、これから問われる時代だという認識を参加者一同が共有した研究会でした。

また、2003 年度は、受賞ラッシュでもありました。一例を挙げると、「平成 15 年度バリアフリー推進化功労者表彰」です。2003 年 11 月 27 日に、内閣府より「平成 15 年度バリアフリー推進化功労者表彰」【内閣官房長官表彰】を受けました。各都道府県の推薦により内閣府が毎年表彰する権威あるもので、この大きな勲章を心の糧に、これからもバリアフリー関連事業や各種サービス開発に邁進していきたいと思っています。

皆様、ぜひご理解とご協力をお願い申し上げます。

2004 年を「感動の一年に」！

2004 年 2 月吉日

特定非営利活動法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター
代表理事 高木治夫

センター事業活動実績

1. 公衆無線インターネット事業「みあこネット」

<http://www.miako.net/>

1-1. みあこネット事業概要

日本にはいくつか「公衆無線インターネット」の試みがあるが、このみあこネットは市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクト。市民有志の負担でアクセスポイントを設置し、無線が利用できるエリアを広げている。市民自らがつくる情報インフラ整備プロジェクトとして、みあこネットは世界に類をみない取り組みである。ユーザが無料で「いつでも」「どこでも」「誰でも」「簡単」「安心」「安全」に公衆無線インターネットが利用できる、市民主導型公衆無線インターネットサービスとして、2002年5月から正式に運用実験を開始した。

アクセスポイント数：約300局

規格：IEEE802.11b 2.4GHz

実験終了予定：2004年12月

利用者：約5,000人（2003年12月31日現在）

【利用環境】

- ・ IEEE802.11b (Wi-Fi) での通信ができるノートパソコンから利用が可
- ・ IEEE802.11b に対応した製品であれば、メーカーは問わない
- ・ OS は、Windows Me、Windows 2000、Windows XP、Mac OS X 10.2 対応（2003年12月31日現在）

1-2. みあこネットのサービス概要

■特徴：世界最先端のオープンな実験センター

- ・ 最大11Mbpsの通信速度と高度なセキュリティ・システムを備えている
- ・ アクセスポイントの多くは市民や民間企業の協力のもとに設置
- ・ 世界最大規模のIPv6の公衆無線インターネットエリア
- ・ 一般利用者はみあこネットを無料で利用できる
（月々の通信費をアクセスポイントのオーナー負担のシステムにより）
- ・ 観光スポット等、アクセスポイント毎に固有の街情報を受信可能
- ・ どこからでも情報発信が可能（端末ごとに固定のグローバルIPアドレスを付与）

■どこでもみあこ

- ・ 京都府内および日本全国各地に無線インターネットの基地局を設置、実験エリアは拡大している
- ・ 沖縄から北海道まで、全国23都道府県

■どこでも新聞、どこでも聴く新聞

- ・ 産経新聞 NEWSVUE が無料で読める他、ユビキタス・ラジオ（Web上の文字情報などを音声で読み上げるサービス）でどこでも新聞が読める

■どこでもインターネット：日本通信（株）

- ・ b-mobile ユーザは、b-mobile で使用しているアカウントのみあこネットも利用可能

■どこでもオフィス：（株）堀場製作所

- ・ 全国のみあこネット基地局から、VPN 接続で自社の基幹サーバへ

■どこでもプリント

- ・ コンビニで「ネットプリント」、富士ゼロックスが実験協力

1-3. 基地局分布

都道府県	市、郡、区				都道府県	市、郡、区			
北海道	札幌市				大阪府	大阪市	豊中市	茨木市	
新潟県	上越市				奈良県	奈良市			
茨城県	牛久市				和歌山県	和歌山市			
群馬県	桐生市				愛媛県	松山市			
埼玉県	戸田市				兵庫県	神戸市	西宮市	氷上郡	
千葉県	鎌ヶ谷市				岡山県	倉敷市	津山市		
東京都	大田区	文京区	港区	台東区	鳥取県	鳥取市			
	江東区	中野区	世田谷区	千代田区	福岡県	北九州市			
	品川区	渋谷区	武蔵野市	国分寺市	大分県	別府市	大分市	佐伯市	
神奈川県	横浜市	藤沢市	鎌倉市		宮崎県	宮崎市			
富山県	黒部市	富山市			沖縄県	沖縄市			
石川県	金沢市								
愛知県	春日井市								
京都府	京都市	舞鶴市	宇治市	向日市					
	城陽市	綾部市	相楽郡						

1-4. みあこネットの活動概要

2003 年度の目標である基地局 300 カ所設置を達成。2002 年後半から、みあこネットに誰でも簡単につながれるようシステムの改良が行われ、利便性は大幅にアップした。更に、インテルとのモバイル環境広報協同プロモーションを 2003 年 6 月 18 日から開始し、みあこネットが使えるエリアにインテル・みあこネットのサインやのぼりを取り付ける費用が捻出できるようになった。この協同プロモーションを通じて、みあこネットの基地局も 150 局から 300 局となる。また、全国各地で地域情報化に取り組んでいる団体がみあこネットの基地局オーナーとなり、2003 年 12 月末には、沖縄から北海道までに広がった。

重ねて、みあこネットの接続環境が安定したこともあり、エココミュニティ研究会枠で、各種企画を行いつつ、利便性・利活用実験を行った。みあこネットのネクストステージを期待して、インテル他多くの企業担当者が、SCGJ のオフィスへ訪れ、モバイル環境広報、医療、観光・まちづくり、防犯・防災、マルチキャスト放送など幅広い可能性について協議を重ねた。

会議・イベント情報詳細：<http://www.miako.net/event/index.html>

1-5. みあこネットを利用した各種実験・活動

以下の実験を 2003 年開始、2004 年にさらに具体化していく。

■どこでも医療

患者本位の医療：「モバイル電子カルテ構想」

- (1) 誰でも (2) いつでも (3) どこでも (4) 安心 (5) 安全 (6) 質の高い
往診先や救急現場でも、VPN 接続で電子カルテを利用！

■どこでもミニ TV 放送局

街中をエンターテイメントに！

みあこネットの個別 or 全基地局へ IP マルチキャスト（1 対多の通信に使用する技術）を使った動画と音声の配信実験を開始。

■どこでも安心

インターネットと防犯カメラを組み合わせて、大規模災害時のアクセス・ライフライン整備の可能性に関して、防犯カメラの会社、まちづくり系団体や自治会などと協議した。

■みあこ de 遊ぼう

みあこネットを遊びに使いながら、新たな活用法を考えていこうというプロジェクト。特に地域活性化を目指して活動を行い、京都を中心として、さまざまなイベントを開催した。

活動紹介：http://www.miako.net/asobo/archives/cat_03ieca.html

◆みあこでかマップ二条城散策ツアー

2003 年 5 月 25 日（日）10:00-15:00

◆みあこでかマップ京都駅ビルツアー with 沖縄 member

2003 年 6 月 14 日（土）14:30-15:40 開催場所：京都駅ビル

◆みあこ de 遊ぼう！

2003 年 7 月 16 日（水）16:00-17:30 開催場所：涼風亭（京都市中京区蛸薬師通六角下ル）

◆みあこ de マップ in 地蔵盆「写真でみる私のまち」

2003 年 8 月 24 日（日）10:00-15:00 開催場所：京都市中京区姉小路通柳馬場東入ル菊屋町の谷口さん宅

◆みあこ de マップ in 木津「木津町こどもエコクラブ木津まち探検」

2003 年 10 月 11 日（土）10:00-14:30 開催場所：京都府木津町泉ホール、木津町役場

◆みあこ de マップ in 姉小路～写真でみる私のまち～

2003 年 11 月 16 日（日）10:00-16:00 開催場所：京都市中京区姉小路通柳馬場東入ル菊屋町姉小路画廊

1-6. みあこネット・インテル協同 PR キャンペーン記念フォーラム

インテル株式会社は、インテル R Centrino™ モバイル・テクノロジーのプロモーション活動を通して、地域運営の公衆無線 LAN サービス普及に向け協力することを、6 月 18 日記者発表した。これを記念して、フォーラムを開催。京都府から佐村知子京都府副知事もフォーラムにご参加いただき、広く京都の情報化に関する広報もできた。

●「ユビキタス社会実現に向けた産官学民共同フォーラム」

みあこフォーラム「公衆無線インターネットと地域活性化」－「ユビキタス社会、誰がどうつくるのか？」－

<http://www.miako.net/forum/2003/>

日時：2003 年 6 月 18 日 13:00-17:30

会場：赤坂プリンスホテル 五色 2 階「橙光の間」

参加者：関係者含め約 200 名 参加費：無料

【進行】

● あいさつ

- ・ケビン・セラーズ氏（インテル株式会社 プラットフォーム・アンド・ソリューションズ・マーケティング本部長）
- ・高木治夫（SCCJ 代表理事、みあこネット事業統括責任者）

● 基調講演 『誰のためのユビキタス社会か』

- ・公文俊平氏（CAN フォーラム会長、国際大学 GLOCOM 所長、モバイルブロードバンド協会理事）

● パネルディスカッション

コーディネータ 國領二郎氏（慶応義塾大学環境情報学部教授）

【パネリスト】

佐村知子氏（京都府副知事）
 清水宏一氏（京都デジタルアーカイブ研究センター副所長）
 新城直氏（神奈川県視覚障害者情報・雇用・福祉ネットワーク（View-Net 神奈川）代表、横浜市立盲学校教諭）
 松本洋一氏（インテル研究所（コミュニケーション&インターコネクテクノロジー））
 湯浅祥弘氏（松下電器産業株式会社 パナソニック AVC ネットワークス社
 IT プロダクツ事業部国内 PC 事業 カテゴリーオーナー）
 岡部寿男氏（みあこネット事業運営責任者、京都大学教授）

■運営体制

主催：CAN フォーラム、モバイルブロードバンド協会、インテル株式会社、
 特定非営利活動法人日本サスティナブルコミュニティ・センター（SCCJ）
 後援：財団法人マルチメディア振興センター、毎日新聞社、産経新聞社、日経デジタルコア

1-7. みあこネットビジネス分科会

みあこネットを継続させるためのビジネス・モデルを考える分科会を行った。

実施日 参加者数	『タイトル』 スピーカー氏名（組織名）
2003年3月26日 15名	みあこネットのビジネス・モデル 小笠原盛浩氏（新事業創出機構） みあこネットで遊ぼう 笠尾敦司氏（東京工芸大学教授）
2003年2月10日 13名	『みあこネットを素材に、事業計画の立て方を考える』 若林靖永氏（京都大学大学院経済学研究科 助教授）

1-8. みあこネット運営体制

<http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	高木治夫	SCCJ 代表理事
事業運営責任者	岡部寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授
総括技術責任者	藤川賢治	京都大学大学院情報学研究科助手
技術運用責任者	古村隆明	財団法人 京都高度技術研究所研究員

【担当顧問】

氏名	所属団体
今井賢一	スタンフォード日本センター理事
辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授
國領二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授

【協力会員】

財団法人 京都高度技術研究所	京都大学
社会福祉法人京都ライトハウス	産経新聞社
龍谷大学	佛教大学
大阪大学	慶應義塾大学
神奈川県視覚障害者情報・雇用・福祉ネットワーク (View-Net 神奈川)	

【企業会員】

株式会社 アイ・オー・データ機器	オムロンフィールドエンジニアリング 株式会社
松下電器産業 株式会社	日本通信 株式会社
インテル 株式会社	論分成果あがるまで匿名希望

2. 「e音ネット」事業（音でひらくアクセシビリティの扉）

<http://www.sccj.com/eoto.html>

2-1. 事業概要

視覚障害者のための耳で覚えるタイピングソフト「ウチコミくん」、その姉妹版「ウチコミくん3D」（立体音声キーボード練習ソフト）の開発・販売を行っていた任意団体 e音ネット（2000年 SCGJ が設立）が、解散（2003年4月）したのをうけ、SCGJ では、「e音ネット」の精神をさらに広げ、2003年から音に特化したバリアフリー事業を活動の柱として入れている。

2-2. アクセシビリティ・プロジェクト

「アクセシビリティ」とは、あらゆる人が、ウェブやソフトウェア、機器、設備、サービスなどを不便なく利用できるようにしようという考え、または利用しやすさの程度を指す言葉。「Web アクセシビリティ」はこれからのホームページ作成においては必要不可欠。米国の行政施策「リハビリテーション法第508条」によって「情報バリアフリー」の必要性が明文化され、現在インターネットの世界標準化機構とも言える「W3C」が「ウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドライン（WCAG1.0）」を整備している。また、日本においても総務省によって今後 JIS 化が推し進められ、「アクセシビリティ（たどり着きやすさ）」や「ユーザビリティ（使いやすさ）」を考えなければならない時代が来ている。

※米国リハビリテーション法508条

2001年6月改正。連邦政府が調達する電子機器や情報端末、ソフトウェアに、障害者が使いやすいような対応や配慮を義務づける法律。対応を怠った場合は、職員や市民が、政府を訴訟することができるという、強制力をもっている。この法律では、パソコン本体やソフトウェア、Web サイトもその対象になっている。

このような世界的な流れを受けて、SCGJ では、財団法人大学コンソーシアム京都、京都高度情報協議会と Web アクセシビリティ向上対策、審査基準制定の推進などに関し協議した。具体的な活動は以下の通り。

● 「Web のアクセシビリティ講座」連続講座

(1) 「みんなにつたえる——わかりやすいホームページ入門講座-Web アクセシビリティ入門講座-」

<全6回：各回180分>

受講対象者：ホームページ作成経験者（初級程度で可）

受講料：36,000円

開催場所：デジタルスクールNeo（京都市中京区烏丸蛸薬師通西入ル ヒライビル3階）

5月19日（月）～6月23日（月） 13:00-16:15 受講生：2人

10月2日（木）～11月4日（木） 13:00-16:15 受講生：4人

(2) 一般公開講座 9月26日（金） 18:30-21:30

「一年後にあわてないために つたえる Web からつたわる Webへ JIS 化の傾向と対策」

植木真氏（ソシオメディア）<http://www.sociomedia.co.jp/>

場所：キャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下ル）

参加費：2,000円（資料代含む）

参加者：33名

(3) 「使ってもらえる Web へ Web 編集・マーケティング戦略編」(4回連続)

11月7日(金)~11月26日(金) 18:30-21:30

1回目 「視覚障害者のアクセシビリティの取り組み」

・杉田正幸氏(大阪府立図書館)

2回目 「行政サービスとアクセシビリティ: 京都ライトハウスによる京都府のサイト点検」

・高橋一夫氏(京都ライトハウス)

3回目 「企業活動とアクセシビリティ: NEC が取り組んだ経緯と経過、そして今」

・藤井浩美氏(NEC コーポレート・コミュニケーション部)

・西本卓也氏(東京大学)

4回目 「学びの現場での取り組み」

・柴田宣史氏(京都精華大学/第1期アクセシビリティ講座修了生)

* 受講対象者: 各種組織 web ベース広報・マーケティング担当者、組織運営実務家

場所: キャンパスプラザ京都 (京都市下京区西洞院通塩小路下ル)

受講料: 10,000 円(資料代を含む)

特典: 12月12日開催の一般公開講座参加費無料

参加者: 14名

(4) 一般公開講座 12月12日(金) 18:30-21:30

「デジタルディバイドを超えて Welfare[福祉]から Workfair[公正さの仕掛け]へ」

◎基調講演とパネルディスカッション

1) 武田博之氏(総務省)

「デジタルディバイドをめぐる国内外の政策環境」

2) 高木治夫((株)ネットイン京都)

「Web アクセシビリティ推進のメリットはこれだ」

3) 竹村真一氏(東北芸術工科大学)

「これからの社会に求められる IT の社会的利用とその効用」

* 受講対象者: Web アクセシビリティに関心のある方ならどなたでも

場所: キャンパスプラザ京都 (京都市下京区西洞院通塩小路下ル)

参加費: 2,000 円(資料代含む)

参加者: 14名

■運営体制

講座主催: 財団法人大学コンソーシアム京都

企画運営: 特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

教室運営: デジタルスクール Neo (株式会社ネットイン京都)

協力: 社会福祉法人京都ライトハウス、京都デジタルアーカイブ研究センター

後援: 総務省、財団法人マルチメディア振興センター、文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター、京都府、京都市、京都高度情報化推進協議会、京都情報基盤協議会、京都・ビジネスモデル推進センター、社会福祉法人京都新聞社会福祉事業団(自立生活支援センター「きらリンク」)、財団法人京都産業 21、京都市社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会、特定非営利活動法人きょうと NPO センター

2-3. UD (ユニバーサル・デザイン)・プロジェクト

http://www.sccj.com/u_radio/index.html

現在、気軽に持ち歩ける PDA を利用して、いつでもどこでも誰でも簡単に、Web 上の新聞や本を音声読上げできる UD (ユニバーサル・デザイン) を実現したブラウザ (ユビキタス・ラジオ) を開発し、これを全国で実験試行中。ユビキタス時代の新たなメディアとして事業化を行いつつ、調査・研究・改善をすすめるプロジェクト。

■開発の背景

・IT が進歩しても障害者の自立には、まだまだ！

視覚障害者は、キーボード配列を覚え、Windows の操作を覚え、スクリーンリーダーの使い方を血のにじむような努力をして覚えても、まだ、自在に Web アクセスをして新聞の情報を得るのには壁がある。

視覚障害者でかなりの技術を取得し、検索エンジンを自在に操作し、Web アクセスが可能な方でも、現行の各新聞社の Web ページは各社配列が違っていたり、フラッシュや PDF などの新技術を競っていたり、フレーム機能を使っていたり Web アクセシビリティ上問題がありアクセスできないページも多い。またアクセス可能であっても、宣伝のバナーなどがあり、目的にたどり着くのに大変時間がかかる。

そこで誰でもいつでも簡単に操作ができる IT 機材を使ってアクセス可能なインターフェイスの出現が必要であることが判明し、複雑な操作をすることなく新聞などのメディア情報をリアルタイムで入手できるユビキタスラジオを開発した。

■運営体制

- ・プロジェクト運営：特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター (SCCJ)
- ・事業化：株式会社ネットイン京都 (開発、サーバ運営、販売、サポートなど)
- ・開発や評価：多くの視覚障害者の方々も参加
- ・番組提供：産経新聞、毎日新聞、日経新聞、京都新聞、大前研一通信、日本気象協会等
- ・販売：NTT ドコモ (公式コンテンツ)、日本通信、@irBitway

2-4. 「ウチコミくん」プロジェクト

視覚障害者や高齢者のタイピングアレルギー解消のための音声タイピング練習ソフト (「ウチコミくん」〈視覚障害者・高齢者対象〉)、「ウチコミくん 3D」立体音声で覚えるソフト〈高齢者・子供対象〉普及の啓蒙・啓発活動。

2003 年度は、各種講演や Web 告知を通じて、音声ソフトの広報を行った。販売は、株式会社ネットイン京都 (京都市中京区蛸薬師通烏丸西入る) が行っている。

2-5. アクセス・ホットライン・サービス

みあこネットの通信インフラを使用すれば、24 時間高速ブロードバンドで、無線インターネットが使える。この環境を利用し、広く商業ベースとして高齢者、障害者、観光客、在日外国人のための新サービスの開発を視野に入れた遠隔ガイドサービスを『アクセス・ホットライン・サービス』と名づけ、事業化に向け 2002 年秋から実験を開始。2002 年度コーディネート活動支援事業助成金対象事業 (2003 年 2 月 15 日終了)。

【第 3 回アクセス・ホットライン・サービス実験】

『外国人観光客に対するガイド支援実験』

「携帯テレビ付端末を利用したの歩行ガイド支援の可能性を探る」～視覚障害者の雇用創出となるか！～

日時： 2003 年 1 月 25 日 (土) 13:30-17:30

内容：研修会、遠隔ガイドサービスコールセンター実験

参加者：30 名

過去 2 回にわたってアクセス・ホットライン・サービス実験を実施。2002 年 11 月 2 日 (土) は視覚障害者のための街中ガイドサービスに焦点を当て、また 2002 年 12 月 1 日は、英語とスペイン語の語学サポーター (視覚障害者) が外国人観光客の買物や食事、観光案内補助などを行う社会実験を行った。2003 年 1 月 25 日 (土) は、過去 2 回のノウハウをもとに、『アクセス・ホットライン・サービス』の実用化に向け、コールセンター機能強化を目的に、高台寺周辺 (京都市東山区) で遠隔ガイドサービス実験を行った。

●観光遠隔ガイドを受ける場所：

みあこネット無線エリア 八坂神社、高台寺周辺 (京都市東山区)

http://www.miako.net/images/miako_map_v5.3.png

●研修会、コールセンター設置場所：

祇園 畑中 (京都市東山区祇園八坂神社南門前)

●使用機材

FOMA、小型ノートパソコン、USB カメラ、PDA、慶応大学ビジネススクール遠隔授業システム、骨伝導ヘッドホン

【参加費用】

・研修会 無料 / 交流会 3,000 円程度

【実験ナビゲータ】

◎高橋一夫氏 (京都ライトハウス鳥居寮指導員) <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-lh/>

◎通訳要員

・スペイン語：前田真理氏 (全盲)

通訳のプロ、但し、3 年ほど現場から離れている。

・英語：芝田幸子氏 (全盲)

コロンビア大学大学院終了後ニューヨーク大学やニューヨーク

●協力

株式会社 NTT ドコモ <http://www.nttdocomo.co.jp/>

株式会社 NTT ドコモ関西 <http://www.docomo-kansai.co.jp/>

國領二郎氏：慶應義塾大学環境情報学部教授 <http://www.kbs.keio.ac.jp/kokuryolab/>

株式会社テレコンサービス <http://www.telecon.co.jp/>

ソنز株式会社 <http://www.sonz.co.jp/>

3. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）

3-1. エココミュニティ研究会と SCCJ サロン活動実績

持続可能な経済 (Sustainable Economy)、持続可能な社会 (Sustainable Society)、持続可能な環境 (Sustainable Environment)、持続可能な地域固有の文化継承・形成に向けての研究と実践。

* 各種研究会簡易報告書を SCCJ 一般用ホームページに、詳細報告書は会員専用ホームページにアップし、会員特典としている。

実施日 参加者数	『タイトル』 スピーカー氏名（組織名）
2003年4月18日 13名	「コミュニティのファイナンスー私たちには何ができるのか」 講師：林 敏彦氏（スタンフォード日本センター理事長・放送大学教授・大阪大学名誉教授）
2003年5月25日 16名	「コミュニティのファイナンスーソーシャル・キャピタルって何だろう」 講師：山内 直人氏（大阪大学国際公共政策研究科教授） 講師：西出 優子氏（大阪大学大学院交際公共政策研究科博士後期課程1年・大阪大学 OSIPP NPO 研究情報センター研究員）
2003年6月27日 18名	「よくわかる地域情報化の傾向と対策【関西編】」 講師：今川 拓郎氏（大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授）
2003年7月15日 16日	祇園祭スペシャル I. 涼風亭 出店『涼風亭』で、風鈴を売りながら、祇園祭を中から楽しむ企画 7月15日、16日両日とも、16:00ころ～21:00まで 店名：涼風亭 会場：京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル ヒライビル前 II. みあこ de 遊ぼう！ 7月16日（水） 16:00-17:30 集合場所：涼風亭 (1)「みあこでかマップ mini ワークショップ」 祇園祭で気になった場所・モノをデジカメで撮影。 写真はその場でプリントアウトし、大きな地図（でかマップ）に貼り、マップは『涼風亭』にあるプロジェクターに投影。 (2)ユビキタスラジオで録別の情報リスニング体験会 簡単な PDA 操作で、場所ごとの祇園祭り情報を自動的にキャッチ III. SCCJ サロン 7月15日（火） 18:30-20:30 『医療を IT の切り口で考える』 14名参加 北岡 有喜氏（国立京都病院地域医療連携室長） 秋山 美紀氏（慶應大学政策・メディア研究科博士課程）
2003年9月2日 21名	「ITで変わる地域医療」 講師：北岡 有喜氏（国立京都病院 医療情報部長）
2003年11月11日 13名	“Fundraising Strategies in the United States” 「アメリカの広報・マーケティングに学ぶ」 シェリル・ブランブレット氏（ツリーズ・アトランタ/ディレクター<広報・財務担当>） 日米教育交流プログラムの一環として SCCJ で3週間研修
2003年11月25日 21名	“The Collaboration Challenge” 「協働への挑戦」 講師：ジェームズ・オースティン氏（ハーバード大学教授）

3-2. 京都研究会

情報、ベンチャー、NPO で創る社会インフラや新しい社会、未来型組織の形に関する研究会で、今年で5回目を迎えた。この研究会は情報化によるオープンプラットフォームを機軸に、SCGJの一年の成果やその年の情報を切り口とした旬なテーマを設定している。

◆「くにつくり」は京都から 第5回 京都研究会 2003◆

<http://www.sccj.com/kk/2003/>

『まちが変わった ユビキタス社会の可能性』

日時：2003年12月5日 金曜日 午後1時から午後6時（夜塾午後8時半から）

場所：金剛能楽堂（京都市上京区烏丸通一条下ル） 参加者：130名（関係者・ボランティア含む）

■ 研究会プログラム 午後1時から午後6時（受付：正午から） 場所：金剛能楽堂

- ◆ 『しつらえとおもてなしのこころ』 いけ花パフォーマンスと解説
笹岡隆甫氏（未生流笹岡次期家元）
- ◆ ご挨拶
林敏彦氏（スタンフォード日本センター理事長）
高木治夫（SCGJ代表理事、みあこネット事業統括責任者）
- ◆ 『生活にとけ込むみあこネット活用事例報告』
コーディネータ：中村伊知哉氏（スタンフォード日本センター研究部門所長）
事例報告者：
新城直氏（神奈川県視覚障害者情報・雇用・福祉ネットワーク View-Net 神奈川代表、
横浜市立盲学校教諭）
北岡有喜氏（国立京都病院医療情報部長）
笠尾敦司氏（東京工芸大学芸術学部デザイン学科助教授）
- ◆ 『みあこネットを活用した地域活性化事例報告』
コーディネータ：新川達郎氏（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）
事例報告書：
上杉志朗氏（松山大学経営学部 助教授）
本多茂氏（富山県黒部市役所商工観光課主幹）
橋本垂矢子氏（片町商店街振興組合事務局長）
- ◆ 基調講演『伝統は革新の連続 - アナログとデジタルの文化的考察』
野村万之丞氏（総合芸術家・狂言師）
- ◆ 『安心・安全・元気なまちを創る』パネルディスカッション
コーディネータ：國領二郎氏（慶応義塾大学環境情報学部教授）
パネル討論者：
野村万之丞氏（総合芸術家・狂言師）
坪田知己氏（日経デジタルコア事務局代表幹事兼慶応義塾大学教授）
清水宏一氏（京都デジタルアーカイブ研究センター副所長）
岡部寿男氏（みあこネット事業運営責任者、京都大学教授）
中村伊知哉氏（スタンフォード日本センター研究部門所長）

■ 夜塾 午後8時半から体力の続くまで 場所：松井本館

- ◆ ミニトークと膝詰め討論
『ここまで来た！ 無線インターネットの可能性』
真野浩氏（モバイルブロードバンド協会理事/ルート株式会社代表取締役社長）

■ 運営体制

主催：特定非営利活動法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター（SCGJ）

共催：スタンフォード日本センター、モバイルブロードバンド協会

後援：毎日新聞社、産経新聞社、社団法人京都青年会議所、京都情報基盤協議会、京都高度技術研究所、IPV6 普及・高度化推進協議会、京都高度情報化推進協議会、マルチメディア振興センター、財団法人京都産業 21、京都・ビジネスモデル推進センター、財団法人インターネット協会、(財) コンソーシアム京都、KBS 京都、日本経済新聞社、京都府、京都市、京都商工会議所、読売新聞社大阪本社、京都新聞社、京都経済新聞社、ビジネスモデル学会、京都新聞社、E ジャパン協議会、日本 NPO 学会、経済産業省、総務省

3-3. SCCJ 共催企画

大阪大学公開シンポジウム「21世紀の政策のあり方を考えよう！」

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/sympo>

開催日時：2003年3月3日(月) 12:15~15:30 (11:45開場)

場 所：千里阪急ホテル 仙寿の間(西館2階)

参加者：300名 参加費：無料

【概要】

鳩山由紀夫氏(民主党前代表)など各界の優れた論客による議論を通じて、「今おこなわれている政策の何が問題か」、「これからどのような政策に取り組みなくてはならないか」を考える公開シンポジウム。

【出演者】

開会挨拶 野村美明氏(大阪大学国際公共政策研究科長)

基調講演「あるべき政権の姿」 鳩山 由紀夫氏(民主党常任幹事)

パネルディスカッション「構造改革の総点検」

《パネリスト》

外交担当 黒澤満氏(大阪大学国際公共政策研究科教授)

福祉担当 竹中ナミ氏(プロップ・ステーション理事長)

産業担当 中 秀雄氏(吉本興業代表取締役会長)

経済担当 林敏彦氏(スタンフォード日本センター理事長)

《コーディネータ》 IT担当 辻正次氏(大阪大学国際公共政策研究科教授)

《進行》 報道担当 脇浜紀子氏(よみうりテレビアナウンサー)

■運営体制

主催：大阪大学大学院国際公共政策研究科(OSIPP)

共催：特定非営利活動法人 日本サステイナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)、
スタンフォード日本センター

4. コンサルテーション事業「愛きもの」

<http://www.i-kimono.com/>

SCCJ 関係者を中心に、若者に伝統文化やきものの良さを知ってもらおうと設立された愛きもの株式会社に対し、営利会社ではサービス情報が届けにくい NPO・ボランティア市場を対象とした広報・マーケティング支援、イベントの企画・運営も行った。今年度の企画内容は以下の通り。

4-1. 「きもの de まちあるき」

<http://www.kimono-kyoto.org/machi/>

日時：平成 15 年 10 月 19 日（日）13:00~16:00

参加者 70 名（当日ボランティアスタッフも含む）

「斎宮夢行列」開催日の 10 月 19 日（日）に合わせ、京都嵐山・嵯峨野を着物で歩き、その模様をインターネット中継する「きもの de まちあるき 2003」（「きもの de まちあるき」実行委員会主催、SCCJ 企画・運営）を開催した。3 回目の今回は、みあこネットを利用し、「きもの de まちあるき' 2003」の模様のほか、渡月橋を背景に「斎宮夢行列」参加者へのインタビュー、クイズなどを交えて行った。

- 「fm-GIG」によるライブ中継

「fm-GIG」によって、インターネット二元生中継された。

fm-GIG <http://www.fm-gig.net/top.html>

- 「京都インターネットテレビ」による放映

「京都インターネットテレビ」に撮影され、後日放映された。

京都インターネットテレビ <http://www.kyoto-tv.info/>

4-2. e きもの NPO 支援サービス

<http://www.i-kimono.com/japanese/magazine/index.html>

それぞれの思いが詰まっているきものを個人から引き取り、インターネット・オークションにかけ、落札された金額を個人に還元し、愛きものはオークション代行手数料で収入を得ている（3000 円の定額代行料＋落札価格の 15%）。今回、その仕組みを更に発展させ、多くの人に安心してきものを提供してもらい、落札料を NPO に還元するという新たなサービスを 2002 年 12 月から開始。第一弾として「京都ライトハウス改築チャリティ・オークション」を 2002 年 12 月初旬から行っており、SCCJ では愛きものとライトハウスの橋渡し、当該サービスのプロモーションなどを行っている。

【実績】

2003 年度きもの寄付枚数 2,300 枚

京都ライトハウスへの還元金額 918,712 円

5. 受賞

- 2003 年 4 月 起業家コンテスト「第 7 回ビジネスジャパンオープン」Meet Your Delight JT 賞受賞
<http://www.japan-open.com/index.html>
- 2003 年 5 月 IPv6 アプリコンテスト 2003 「アイデア部門」奨励賞受賞
<http://www.v6pc.jp/apc/jp/invitation.html>
- 2003 年 9 月 内閣官房及び経済産業省「地域産業おこしに燃える人」に選定
<http://www.kantei.go.jp/jp/kakugikettei/2003/0917moeru.html>
- 2003 年 10 月 「日経地域情報化大賞」日本経済新聞社賞受賞
<http://www.nikkei.co.jp/riaward/index.html>
- 2003 年 11 月 内閣府「平成 15 年度バリアフリー化推進功労者表彰」内閣官房長官表彰受賞
<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/h15hyou-gai.html>

6. 広報・マーケティング

Web サイト、メールマガジン、プレスリリース、各種メーリングリストでの広報・マーケティングを行った。

6-1. 各種メールマガジン発行

各種事業のテーマと対象者の関心が違うことから、対象者に対応したメールマガジンの発行を 2002 年度から開始し、2003 年も定期的に行った。

○SCCJ 会員専用メルマガ 『SCCJ Information』
100 人へ発信 毎月 1 回発行

○みあこオーナー用メールマガジン 『miako express for owners』
オーナー、みあこネット関係者 150 名 2003 年度 5 回発行

○みあこネット情報メールマガジン
みあこネット情報メールマガジン受信希望者 450 名 2003 年度 15 回発行

6-2. 各種メーリングリスト運営 (Yahoo! eGroups 利用)

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメーリングリストが 10 数本あり、1,300 人ほどがネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メーリングリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメーリングリストで、登録者数は、2003 年 12 月末には 800 名となった。設立当初の 1999 年は 190 名、2002 年度末には 616 名と、活動の広がりのバロメーターとも言える。

6-3. Web リニューアル

SCCJ の Web サイト <http://www.sccj.com/>
みあこネット <http://www.miako.net/>

★アクセシビリティに配慮

2002 年度より実施している「Web アクセシビリティ講座」で作成した「アクセシビリティ評価チェックシート」に基づいて SCCJ の Web をリニューアル。聞き心地と見栄えのバランスを考えたものにし、視覚障害者数名に「聞き心地」に関しご意見をいただき、改良を重ねた。今年度実施の「Web アクセシビリティ講座」の教材開発の一環として行った、ルビ振りに関する調査で、ルビもアクセシビリティ向上に役立つことが明らかとなり、現在、SCCJ とみあこネット両サイトで、ルビ振り機能も搭載している。

★情報編集に配慮

SCCJ の Web サイトは 2 月から 5 月にかけて、Web 上の情報整理・編集を行った。みあこネット Web サイトは、6 月からのインテルとの PR 協同キャンペーン効果を高めるため、インテル・みあこネットのロゴを入れて、リニューアル。9 月には英語版も完成した。

★来年度に向けて

2004 年は評価数値や目標設定を行い、効率の良い Web 広報・マーケティング評価・分析を考えていきたい。

6-4. プレスリリース

2003 年も各種企画や開発結果公表の際は、プレスリリースを出した。SCCJ、みあこネット合わせて、SCCJ 専用プレスリリースのメーリングリストで 31 回のプレスリリースを出すとともに、各種ネットメディアにも情報を送るなど、積極的に情報発信を行った。

6-5. メディア露出度

2003 年度も、みあこネットを中心に、多数のメディアに取り上げられた。

- SCCJ <http://www.sccj.com/news/index.html> (事務局把握分 9 前年度 4)
 - ・ 2003 年 12 月 15 日 にっぽん NOW ビルやホテル、商店街で 活性化するバリアフリー化
 - ・ 2003 年 10 月 6 日 日本経済新聞 日本経済新聞社賞受賞
 - ・ 2003 年 9 月 25 日 電波新聞 地域産業おこしに燃える人 SCCJ(京都)高木代表を選出
 - ・ 2003 年 9 月 19 日 産経新聞 新・関西人国記 京都のために… 広がる無線ネット
 - ・ 2003 年 9 月 18 日 京都新聞 「燃える人」の知恵借り地域活性
 - ・ 2003 年 9 月 18 日 産経新聞 新・関西人国記 障害者に好評 声の新聞
 - ・ 2003 年 9 月 17 日 産経新聞 新・関西人国記 物資持ち被災地へ阪神大震災が転機
 - ・ 2003 年 9 月 16 日 産経新聞 新・関西人国記 高齢者が仕事できる“器”づくり
 - ・ 2003 年 1 月 26 日 京都新聞 カメラ付き携帯で遠隔ガイド実験

- みあこネット <http://www.miako.net/media.html> (事務局把握分 80 前年度 60)

記載の一部

 - ・ 2003 年 12 月 1 日 日経アドバンテージ
『もてなしの精神で“無銭”LAN 観光客・出張族の利便性高める』
 - ・ 2003 年 12 月 1 日 京都新聞
「秘すれば花 ITでおもてなし」
 - ・ 2003 年 11 月 26 日 朝日新聞
「ずばり聞きます Q 無線 LAN を使ったまちづくりの利点は」
 - ・ 2003 年 10 月 23 日 日本経済新聞
「公衆無線ネット 京都府、きょう始動」
 - ・ 2003 年 10 月 6 日 日本経済新聞地域総合 1 面
日経地域情報化大賞を創設
「日本経済新聞社賞」に、特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センターが選ばれ、掲載されている。
 - ・ 2003 年 9 月 19 日 産経新聞夕刊[経済面]
「新・関西人国記」に、「京都のために・・・無線ネット」
 - ・ 2003 年 8 月 16 日 中日新聞朝刊
「片町のカフェで、「京都の夏」体感」
 - ・ 2003 年 6 月 20 日 毎日新聞ユニバーサロン
京都型公衆インターネット普及の可能性探る
-ユビキタス社会目指し みあこフォーラム開催-
<http://www.mainichi.co.jp/universalon/report/2003/0601.html>
 - ・ 2003 年 4 月 11 日 京都新聞
公衆無線 LAN は IPv6 で 京の NPO 全国初の試み
 - ・ 2003 年 3 月 21 日 日経新聞
「みあこネット」、全国展開開始

7. 寄付

浅野令子 9,000 円 e音ネット 223,630 円

8. 会員について (2003 年 12 月末現在)

<SCCJ正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	68	12	80
学生	1	4	5
企業	3	1	4
合計			89

企業会員名：株式会社ネットイン京都
 愛きもの株式会社
 株式会社セカンド
 Telecommuting Lab. (意思伝達研究所) <新規>

<みあこ企業会員> 企業会員 6 社

株式会社アイ・オー・データ機器、
 オムロンフィールドエンジニアリング株式会社
 松下電器産業株式会社
 日本通信株式会社 <新規>
 インテル株式会社 <新規>
 (研究成果がでるまで匿名希望) <新規>

9. 助成金

3,360,000 円 (2002 年度コーディネータ活動助成金精算支払い分)

II センター運営に関する活動

1. 2003 年度 SCCJ 理事会開催

○第1回理事会

日時：2003年1月16日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第2回理事会

日時：2003年1月27日 13:00-15:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第3回理事会

日時：2003年2月4日 12:30-14:30
会場：社団法人ソフト化経済センター (東京都港区虎ノ門1-25-5 第34MTビル3F)

○第4回 特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター 総会

日時：2003年2月19日 18:30-20:00
会場：ネットイン京都 (京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル)

○第5回理事会

日時：2003年5月26日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第6回理事会

日時：2003年6月17日 18:30-20:00
会場：赤坂プリンスホテル (東京都千代田区紀尾井町1-2)

○第7回理事会

日時：2003年7月28日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第8回理事会

日時：2003年9月29日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第9回理事会

日時：2003年10月27日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第10回理事会

日時：2003年11月28日 12:30-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

○第11回理事会

日時：2003年12月8日 13:00-14:30
会場：SCCJ オフィス (京都市中京区小川通六角下ル)

2. 事務局体制 (2003 年 12 月末現在)

(1) 職員

常勤：3 名

専務理事・事務局長：浅野令子

プロジェクト・コーディネータ：隅岡敦史

総務コーディネータ：櫻井菜穂子

非常勤：1 名 田阪裕章

(2) インターン

2 名 大学コンソーシアム京都から派遣 2002 年 8 月～9 月

1 名 立命館大学学生個人希望により受け入れ 2003 年 9 月～12 月

(3) 研修生受け入れ

日米コミュニティ・エクスチェンジが毎年実施する NPO パスファインダー・プログラム（米国の NPO 経営者および現役スタッフを日本に招聘する企画）を通じて、米国ジョージア州アトランタ市で活動している NPO 団体 Trees Atlanta から、シェリル・ブランブレット氏（広報・財務担当ディレクター）を受け入れた。受け入れ期間は、2003 年 10 月 19 日から 11 月 13 日であった。この間、ブランブラッド氏には、SCCJ、みあこネットの Web サイト、広報・マーケティングに関するアドバイスをいただき、リターンとして、Web アクセシビリティ、高齢者・障害者向けのマーケティングに関するノーハウを提供。日本の環境団体のヒヤリング、京都ライトハウスへのフィールド・トリップのアレンジをするなど双方にとって、メリットになる交流を行った。

(4) アソシエートプログラム

「自分づくり」を目的とする方が集うアソシエート・プログラムを設けている。2003 年度は該当者なし。2002 年は 1 名。

(5) ボランティアスタッフ のべ人数：約 100 名

SCCJ 主催の各種研究会にはボランティアが参画し、企画運営を行った。SCCJ ボランティア希望者専用メーリングリストも作り、SCCJ 活動サポーターの裾野を広げる努力をした。2003 年 12 月末現在 50 名登録。

3. 理事、監事、顧問 (2003年12月末現在)

役職	氏名	所属団体
代表理事	高木 治夫	(株) ネットイン京都 代表取締役
理事	竹原 司 (副代表理事)	デザインオートメーション (株) 代表取締役
	新川 達郎 (副代表理事)	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
	国領 二郎 (理事)	慶應義塾大学 環境情報学部 教授
	浅野 令子 (専務理事)	SCCJ 事務局長
監事	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター 理事
顧問	跡田 直澄	慶応大学 商学部 教授
	今井 賢一	スタンフォード日本センター 理事 京都府中小企業総合センター 所長
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学 大学院映像造形学科 教授
	菱田 健次	弁護士
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授
	北矢 行男	多摩大学経営情報学部・大学院修士課程 教授 戦略問題研究所 所長
	公文 俊平	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 所長 CAN フォーラム 会長
	町田 洋次	社団法人 ソフト化経済センター 理事長代行
	山内 直人	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授